

大径化したナラ類も萌芽更新するのか

- 高齢級化大径化したナラ林は立木密度が低く、萌芽発生本数が不足。
- 萌芽しても経年とともに枯死する株がある。

概要

県内の里山地域の広葉樹林は、高齢級化した森林が多くなっており、ナラ枯れ等による森林の機能低下が発生しています。今後、林分の健全化や、場合によっては林分の更新が必要となりますが、一般的に高齢級化した広葉樹は萌芽更新が困難であると言われてます。しかし、その実態把握は進んでおらず、更新方法は確立されていません。そこで、本研究では高齢化した広葉樹のうち、ナラ類の萌芽更新が可能かどうかを検証しました。

その結果、広葉樹の大径林では、立木密度が少なく(主に 500~650 本/ha 程度)、株の全てから萌芽が成立したとしても、不足していました。これまで、高齢化すると萌芽が困難と言われているナラ類でも、県内の調査地では、樹齢 70 年程度のナラ類でも伐採 1 年目の萌芽枝の発生は確認できました。しかし、経年により、萌芽枝が脱落し枯死する株が増加することも判明しました。特に、ナラ枯れが発生している林分については、株にカシノナガキクイムシが穿孔したことにより株が枯死する場合があります。

結論

大径化や高齢級化したナラ類は、伐採後萌芽する株も確認できましたが、その後年数が経過するとともに枯死する株が確認され、萌芽による更新は期待できない可能性が高く、高齢級のナラ林では早めの若返りが重要であることがわかりました。



萌芽が発生した
伐採時樹齢 75 年生のミズナラ



75 年生ミズナラの萌芽枝枯死
状況 (H26) (接写)

詳しくは <http://www.pref.nagano.lg.jp/ringyosogo/seika/gyomu/documents/h27.pdf>

担当者 育林部 清水香代